【回　覧】

つばめきた

自分のことは自分で

校長　　小川　泰文

先日、あるテレビ番組を見て驚きました。大阪府吹田市の少年野球チーム「山田西リトルウルフ」の指導者、棚原安子さんが紹介されていたのです。

安子さんは夫の長一さんとともにチームを創立して 50 年、現在 80 歳。今もなおノックバットを振って小学生を鍛える現役の指導者です。年齢を感じさせない身のこなしと、バイタリティあふれる姿が画面から伝わり、圧倒されました。

同時に、子どもたちにかける厳しくも温かい言葉からは、お互いの強い信頼関係が伝わってきました。

入部する時、子どもたちは安子さんといくつかの約束を交わすそうです。

「ユニフォームは自分で洗濯をする」

「自分が飲むお茶は自分で用意する」

「帽子とかばんの代金は、家の手伝いをして自分で稼ぐ」

基本は「自分のことは自分でする」ということ。

子どもが野球に専念できるよう、大人が周りの環境を整えてあげることも少なくない現代ですが、この自立心こそが野球の上達、ひいては人間的な成長に欠かせないものなのだと感じさせられます。

また、安子さんはこう語ります。

「12 歳を過ぎると子どもは思春期に入り、親の言葉を素直に聞かなくなる。それまでに身につけるべきことを徹底して教えれば、大きく道を踏み外すことはない」

12 歳といえば、小学校を卒業する年齢です。小学校で子どもたちを教育する立場として、この言葉に改めて責任の重さを感じました。「12 歳までに身に付けるべきこと」を明確にし、日々の教育活動に取り組んでいかなければと、身が引き締まる思いです。

安子さんが 80 歳まで指導を続けられる理由を、次のように語る姿が印象的でした。

「子どもが伸びていくのが目に見えてわかる。それが楽しくて仕方ないんです」

「光あび　羽が輝く　赤とんぼ　秋風にのり　ひらひら飛ぶ」

6 年生の廊下に掲示された、ある児童の短歌に目が留まりました。日が傾きかけた夕方、太陽の光を受けたトンボの羽が、くっきりと輝いています。ふと視線を移すと、北っこ山では冷たい空気の中、子どもたちが元気に遊んでいます。

トンボが運んできた、秋の深まり。今年度の教育活動も折り返し地点を迎えました。これからは寒さも厳しくなってまいりますが、後半戦も引き続き、子どもたちの成長を温かく支えてまいりましょう。

全国学力・学習状況調査の結果

４月に行われた６年生対象の全国学力・学習状況調査の結果とともに、分析や今後の取組についてお知らせします。

教　科	新潟県との比較	全国との比較
国　語	上回っている	同水準
算　数	上回っている	上回っている

全体的には良好な学力実態でした。国語では、記述式問題と「読むこと」について突出していました。一方、「情報の扱い方に関する事項」については課題となりました。

算数では、グラフの解釈や基礎的な計算・知識が突出していました。一方、割合や数学的根拠を筋道立てて言葉や式で表す力に課題がみられました。

今後は、国語も算数も情報整理や説明の力を高めるべく、全校で授業改善を推進していきます。

全校スマイル遠足を行いました

１０月２日（金）に、晴天の下、全校スマイル遠足を行いました。燕市体育センターを拠点に、ハレラテつばめ、こどもの森、交通公園をスマイル班でまわりながら遊びを楽しみました。事前に実行委員を募り、会の進行など、子どもたち自身が運営する行事にもなりました。

また、たくさんのボランティアの方々から各グループに混じって活動していただき、安全管理等を担っていただきました。ありがとうございました。







～　北っ子の活躍　～

○　児童生徒科学研究発表会・化学作品展

１年　ＳＳ　「昆虫標本」　（令和８年度 児童・生徒『昆虫標本展』推薦）

３年　ＡＫ　「昆虫標本」　（令和８年度 児童・生徒『昆虫標本展』推薦）

５年　ＥＹ　「温まりやすい色 or 冷めやすい色は？」

（いきいきわくわく科学賞 2026 推薦）

○　歯と口の健康に関する図画・ポスターコンクール

銀賞　６年　ＫＲ